

おそきの学校と地域を考える会の活動

考える会では、昨年度から引き続きコロナ禍の中で、「できる活動」、「コロナ禍で止めてはいけない活動」を進めています。今回の「おそきだより」の発行もコロナ禍で人と会えず、地域情報が乏しいので発行して欲しいとの声もいただき、年4回の発行を目指しています。

また、子どもから高齢者・障がい者まで安全・安心に暮らせる取り組みとして国が推進している地域見守り施策を、円滑に進めるため、青梅市内では小曾木地区が先駆けて青梅市防災課・市民活動推進課・高齢者支援課・障害者福祉課・福祉総務課・青梅消防署・包括支援センターすえひろ、第6支会・小曾木市民センター・小曾木地区自主防災組織での打合せの場を設けて活動を開始しました。簡単な事業ではありませんが、考える会で協力できることを進め、住みやすさの向上を目指します。

今年度の市民提案協働事業には、「みんなが安心・楽しめる地域づくり～クルマで安心防災おうめ・いっしょにあそぼう！おうめで～」をテーマに、1)停電時の自動車からの給電による在宅避難の推進講座の実施、2)小曾木市民センターで地域歴史文化紹介や日本文化体験の実施で申請しました。コロナ禍の中でもあり、2次プレゼン審査で残念ながら不採択となりました。



地域見守り協働事業の打合せ



市民協働事業2次プレゼン ZOOM 審査

「ひまわりプール」再開へ向けての改修状況

黒沢3丁目黒仁田川の「ひまわりプール」再開活動は、「ひまわりプール保存会（中村真吾会長）により「じゃぶじゃぶ池」と「自然観察ゾーン」としての復活へ向けて着々と進んでいます。

現在までに、錆びた柵の補修（溶接）や法面の土留め・下り坂の手すり設置が行われました。今後は、青少年対策小曾木地区委員会の協力で、地元の子供たちにプール壁面に絵を描いてもらう予定で進んでいます。

また、「ひまわりプールってどんなところ？」との話もあり、山のプール「ひまわりプール」のイメージ動画も作成され公開されています。右のQRコードからご覧ください。昭和の時代の「ひまわりプール」が作られた秘話は考える会ホームページでご覧ください。



手すり設置

柵の補修

土留め設置



青い壁面に絵が描かれる予定



編集後記

また夏がやってくる。黒沢川清掃活動も今年は40回目。歴史をひも解くと、40数年前の第6中学校生徒会が、何か地域貢献が出来ないか！、と話し合いスローガンも決め生徒のみでスタート。その後地域を巻き込み、児童生徒による実行委員会が立ち上がりました。



今年も一同に集まり、委員長、副委員長決め、テーマ決め、ポスター作成、掲示のお願い、当日のあいさつ、反省会等見事にこなしてくれるでしょう、頼もしい子ども達、地域の宝です。

また間修院の横を流れる黒沢川支流に今から57年前にひまわり子ども会が、地域の大人を動かし川をせき止めプールを作りました。その様子は「山のプール」として、昭和46年発行の国語の教科書に掲載されました。惜しまれつつ平成12年「ひまわりプール」は解体されましたが、保存会が立ち上がり、プールの壁面に落書きを楽しむ企画がこの夏開催されます。

子どもが発信し、大人が受け止める。黒沢川を通して、この地域の連携プレーの素晴らしさを再認識しました。
(島田福美)